

板橋区教育大綱

私たちは、国際情勢の変動や社会経済の不安定化、生成AIをはじめとした科学技術の飛躍的な発展、長期的な気候変動など、将来の予測が困難な時代を生きています。また、グローバル化や少子高齢化の進展に伴い、多様性への理解が求められています。

子ども一人ひとりの姿は多様です。個々の状況に寄り添い、子どもの可能性を引き出し、伸ばしながら、「誰一人取り残さない教育」を実現することが求められています。

大人にとっても、時代の変化に対応するために、生涯学び続け、知識やスキルを更新することがこれまで以上に重要となっています。

また、子どもを守られる存在としてとらえるのではなく、子どもも社会の一員としてともに考え、ともに社会に参画していくことで、教育の価値はさらに高まります。

こうした状況に対応するため、従来の枠組みを超えた、新しい学びの創造が必要です。この変革の核となるのが、「多様な学び」の実現です。

学びは、知識の習得だけでなく、スポーツや文化活動、地域との関わりなど、多岐にわたる体験を通じて、自分を成長させ、世界を広げるものです。そうした学びは、教育の枠を超え、環境・福祉・医療など多様な分野、地域・企業・NPOなど様々な主体との連携・協働により、可能性が広がります。

教育を通して、学びや成長、人とつながることによる喜びを感じられることが、一人ひとりの生涯にわたる幸せにつながります。

私たちは、板橋全体を学びのキャンパスと位置づけ、「学びを通じて、幸せと成長を実感できるまち」の実現をめざし、区民の皆さまとともに全力で取り組んでいきます。

子どもの可能性を引き出し、伸ばす教育の実現に取り組みます

- 幼児期は、人格形成の重要な時期です。幼児期は、遊びを中心とした頭も心も体も動かす様々な体験を通じて、思考力や豊かな感性、協同性などをはぐくみます。
- 小中学校では、発達の段階や特性、興味・関心に応じた学びを推進します。互いの違いを尊重し、多様な仲間と協働して学ぶ機会を広げます。また、挑戦を積み重ねられる環境や実社会に結びつく体験機会を提供し、子どもの自己肯定感や、やり抜く力、共感力など非認知能力をはぐくみます。
- 子どもが新たな学びの段階に安心して踏み出せるよう、各学校段階をつなぐ切れ目のない教育の充実に取り組んでいきます。
- 障がいや外国にルーツがある等、多様な背景を持つ子どもが、個のニーズに応じた質の高い教育を受けられる環境づくりを進め、すべての子どもの未来の選択肢を広げていきます。

子どもの学びと成長を支える人や環境づくりに取り組みます

- 子どもの健やかな成長と学びを支えるため、専門人材や地域と連携し、子どもが安心・安全に過ごせる多様な居場所を創出し、子どもが主体的に選べる環境をつくります。
- 教員が働きやすい環境づくりと教員が主体的に専門スキルを学び続けられる環境を整え、創造的な学校経営を推進します。また、生成AIなどのデジタル技術を適切に活用した学習空間や、柔軟な学びを可能にする仕組みを整備し、地域に開かれた学校環境を構築することで、未来志向型の学校環境の整備を進めていきます。
- 大人一人ひとりが持てる力を発揮し、家庭や地域、企業、NPO、教育関連機関など多様な主体と連携しながら、異年齢・異世代との学び合いを促進し、子どもが地域とのつながりや社会の一員としての自覚と責任を育む環境づくりを支援します。

生涯にわたり学び教え合えるしくみづくりに取り組みます

- 年齢や立場を超えて、誰もが学び続けられる環境を整えます。子どもも大人もともに成長するため、自分の言葉で気持ちや考えを表現する力を身につけ、地域の一員として、ともに学び教え合う柔軟で開かれた環境をつくります。
- 想像力や創造性をはぐくみ、新たな世界をひろげる本や音楽、絵画などの多様な芸術に触れあい楽しむ環境をつくります。
- 先人が築いてきた歴史や伝統文化を尊重しながら、比類なき文化財を後世に継承するために保存し、さらに先端技術の活用による価値や魅力の向上を図っていきます。
- スポーツや文化・芸術による達成感や連帯感、精神的充実を通じて、心身の健康をはぐくみ、自分らしい人生を実現するため、これらに親しめる環境整備に取り組んでいきます。

教育活動を支える基盤づくりに取り組みます

- 板橋の豊かな自然や歴史、文化、モノづくりなどの地域資源を活かしつつ、あらゆる場で学びの機会を充実させる取組を進めます。
- 板橋と交流のある外国都市とのつながりを大切にしながら、世界に視野を広げる教育機会の充実に取り組んでいきます。
- 子どもの学ぶ権利の保障に向けた取組を進めていきます。

令和7年 月 日

板橋区長

坂本 健